

# 「平成 25 年度東京都における障害児（者）の歯科保健医療に関する実態調査」

## 調査結果（概要）

### I 調査の目的及び方法

#### 1 調査目的

東京都では、都民の歯と口腔の健康を保つため、東京都歯科保健目標「いい歯東京」を策定し、都民のニーズや課題を反映させた指標や施策を盛り込み、事業を展開しているところである。

一方、国は、平成 23 年度に「歯科口腔保健の推進に関する法律」を制定し、基本的な方針、目標などを定め、歯科疾患の予防等による口腔の健康の保持の推進に関する施策を総合的に推進することとした。施策のうち「障害者等が定期的に歯科検診を受けること等のための施策」のための指標については、現在の都の目標に盛り込まれていない。そのため、障害者の実態を調査し、目標策定のための基礎資料とすることを目的とした。

#### 2 調査対象

	調査名	対象	調査方法
1	障害者福祉施設の歯科保健医療に関する実態調査	東京都にある障害者福祉施設（入所、通所）のうち 150施設	郵送による自記式調査票配布 歯科医師の施設訪問による回収
2	医療機関を併設する重症児施設の歯科保健医療に関する実態調査	東京都にある医療機関を併設する重症児施設 14施設	郵送による自記式調査票配布 郵送による回収
3	障害者福祉施設の歯科保健医療に関する実態調査に付随した聞き取り調査	1について回答が得られた施設 122施設	1の施設訪問時に聞き取り
4	障害者福祉施設利用者の歯科保健医療に関するアンケート調査	1及び2で回答が得られた施設の利用者 1,091人	郵送による自記式調査票配布 1の施設：施設訪問時に回収 2の施設：郵送による回収

#### 3 調査時期

調査票に回答する調査時点は、平成 25 年 10 月 1 日現在とした。また、調査票郵送は、平成 25 年 9 月、回収及び聞き取りは同年 10 月から 12 月に行った。

#### 4 調査実施

調査は、公益社団法人東京都歯科医師会がムカイ口腔機能研究所の協力を得て実施した。

### II 調査結果の概要

#### 1 障害者福祉施設の歯科保健医療に関する実態調査

##### (1) 調査数

調査回答数は、122 施設であり、回収率は 81.3%であった。

##### (2) 回答者の職種

回答者の職種は、看護師・保健師が 37.7%、施設（副）長 22.1%、支援員 16.4%であった。

### (3) 施設の種類

回答施設のサービスの種類は、生活介護 74.6%、施設入所支援 25.4%、自立支援（機能訓練、生活訓練）11.5%であった。

### (4) 施設の開設者

回答施設の開設者は、社会福祉協議会以外の社会福祉法人が開設した施設が 45.9%、区市町村の開設が 34.4%であった。

### (5) 施設職員の構成

施設職員の職種の構成は、常勤、非常勤及びその他を合わせ、「介護福祉士」333人、「看護師」235人、「言語聴覚士」173人であった。また、歯磨きにかかわる職員の職種は、「介護福祉士」252人、「看護師」97人、「歯科衛生士」22人であった。

### (6) 施設利用者の定員

施設利用者の定員は平均 44.6人、最大 128人、最少 5人であった。

### (7) 利用者の構成

利用者の障害別の状況は、年齢区分別に、下表のとおりであった。

(人)

年齢区分	主として身体障害	主として知的障害	主として精神障害	主として発達障害
18歳未満	22	4	0	0
18～64歳	1,597	3,079	89	54
65歳以上	168	137	3	0
合計	1,787	3,220	92	54

### (8) 施設内の歯科診療所設置状況

施設内に歯科の診療施設を設置しているか聞いたところ、「設置している」2.5%、「設置していない」95.9%であった。

### (9) 歯科健診の状況

#### ア 歯科健診の機会

歯科健診の機会があるか聞いたところ、「機会がある」73.0%、「機会がない」27.0%であった。

#### イ 歯科健診の頻度

歯科健診の機会がある 89施設にその頻度を聞いたところ、「年1回」57.3%、「年2回」13.5%であった。

#### ウ 歯科健診の対象者

歯科健診の機会がある 89施設にその対象者を聞いたところ、「施設利用者全員」60.7%、「希望者のみ」22.5%、「必要と思われる利用者のみ」14.6%であった。

#### エ 健診の課題

歯科健診の機会がある 89施設に対し、健診に課題があるか聞いたところ、「課題がある」42.7%、「課題がない」47.2%であった。

また、具体的な課題の内容は、「健診のシステムに関する課題」13件、「健診内容についての課題」11件、「設備・受け入れ等についての課題」6件、「健診後の治療との結びつけについての課題」9件、「その他の課題」3件であった。

## (10) 歯や口腔の健康状態（年間の人数）

### ア 症状の訴え、気付きの状況

歯や口腔の状態について症状を訴えたり職員が気がついたりする利用者の人数について聞いたところ、「歯ぐきの腫れ・出血（延べ人数）」7,799人、「硬いものを嫌ったり、噛みにくい（実数）」559人であった。

(人)

年齢区分	歯が痛い(延べ)	歯ぐきの腫れ・出血 (延べ)	硬いものを嫌ったり、 かみにくい(実数)	飲み込みにくい (実数)	その他
18歳未満	9	9	7	3	0
18～64歳	1,606	7,058	509	399	209
65歳以上	740	732	43	62	41
合計	2,355	7,799	559	464	250

### イ 訴えに対し受診勧奨の状況

症状を訴えた利用者に対し受診を勧めるかについて聞いたところ、歯ぐきの腫れ・出血を訴えた利用者に対し「受診を勧める」697人、硬いものを嫌ったり、噛みにくいと訴えた利用者に対し「受診を勧める」301人であった。

(人)

	歯が痛い(延べ)	歯ぐきの腫れ・出血 (延べ)	硬いものを嫌ったり、 かみにくい(実数)	飲み込みにくい (実数)	その他
積極的に勧める	98	216	90	197	111
行った方がよいと勧める	230	409	71	53	23
場合によっては勧める	18	72	140	50	72
勧めてはいない	26	60	110	83	13
その他	4	10	14	29	0

## (11) 食事、食べる機能（摂食機能）支援の状況

### ア 食事

#### (7) 食事の提供方法（重複回答）

施設での食事はどのような方法を取っているか聞いたところ、「施設が調理した食事を提供」89.3%、「仕出し弁当などを利用」13.1%、「利用者が弁当持参」12.3%であった。

#### (4) 提供する食事の形態（重複回答）

利用者に提供する（できる）食事の形態について聞いたところ、「一般食（常食）」91.8%、「軟食（刻み食含む）」81.1%、「流動食（ミキサー食、ペースト食を含む）」67.2%であった。また、聞き取り調査時に経管栄養への対応について聞いたところ、16.4%が対応していた。

#### (7) 利用者への食事介助に関する問題

利用者への食事介助に関して問題を感じるものがどの程度あるか聞いたところ、「ややある」44.3%、「大変ある」21.3%、「あまりない」21.3%であった。

また、具体的内容は、「食形態の対応が問題」17件、「介助方法など介助側（施設側）の問題」20件、「食べ方など施設利用者側の問題」25件、「保護者や家族との認識の差の問題」9件、「その他の問題」11件であった。

### イ 摂食機能支援

#### (7) 摂食機能のための指導・訓練の状況

食べたり飲み込んだりすることに問題がある利用者に対して、食べる機能(摂食機能)

の維持向上を図るための指導・訓練を実施しているか聞いたところ、「実施している」56.6%、「必要は感じているが実施していない」32.8%、「必要を感じない」13.9%であった。

**(4) 摂食機能のための指導・訓練の状況（重複回答）**

食べる機能の維持向上を図るための指導・訓練を実施している69施設に対し、実施している指導・訓練の内容について聞いたところ、「食環境（姿勢や食具など）の指導」89.9%、「食内容（食形態・物性など）の指導」81.2%、「関節機能訓練（嚥下体操や器具を使ったトレーニングなど）」62.3%、「直接的機能訓練（実際の食品を使った訓練）」24.6%であった。

**(5) 指導・訓練を主に実施している職員の職種**

食べたり飲み込んだりすることに問題がある利用者に食べる機能の維持向上を図るための指導・訓練を実施している69施設に対し、主に実施している職員の職種を聞いたところ、「看護師」43.5%、「歯科医師」24.6%、「作業療法士」23.2%、「理学療法士」20.3%、「歯科衛生士」14.5%であった。

**(6) 実施していない理由（重複回答）**

食べたり飲み込んだりすることに問題がある利用者に食べる機能の維持向上を図るための指導・訓練の必要性は感じているが実施していない40施設に対し、その理由を聞いたところ、「実施できる人材（専門職）がいない」82.5%、「評価や実施方法などの知識・技術が不足している」80.0%、「時間が確保できない」30.0%であった。

**(12) 歯科受診の状況**

**ア 受診先**

**(7) 利用している受診先（重複回答）**

施設として通常利用している受診先を聞いたところ、「定期的に受診している歯科医院・センターなど」56.6%、「施設への歯科医師の訪問」36.9%、「その他の大学病院や歯科診療所」27.9%であった。

**(4) 受診先を選ぶ理由**

施設が通常利用している受診先を選ぶ理由について聞いたところ、「歯科医療機関（医療システム）側の理由」35件、「施設側の理由」27件、「施設利用者・保護者や家族側の理由」26件、「その他」20件であった。

**イ 受診の方法（重複回答）**

受診方法を聞いたところ、「自分で（家族の介助含む）」64.8%、「職員の介助で」39.3%、「訪問診療」23.8%であった。

**ウ 歯科受診の課題**

歯科受診について課題があるか聞いたところ、「課題がある」56.6%、「課題はない」40.2%であった。

また、その内容について聞いたところ、「歯科医療機関（医療システム）側の課題」36件、「施設側の課題」6件、「施設利用者側の課題」17件、「保護者や家族との認識の差の課題」6件、「その他」11件であった。

**(13) 歯や口腔の健康管理の状況**

**ア 歯磨き**

**(7) 歯磨きの機会**

利用者に歯磨きの機会を取り入れているかについて聞いたところ、「取り入れている」97.5%であった。

**(4) 歯磨きの頻度（重複回答）**

利用者に歯磨きの機会を取り入れている119施設に対し、歯磨きの頻度について聞いたところ、「昼食後」93.4%、「夕食後」25.4%、「朝食後」27.9%であった。

**(5) 歯磨きの対象者**

利用者に歯磨きの機会を取り入れている119施設に対し、歯磨きの対象者について

聞いたところ、「全員」71.4%、「希望者のみ」18.5%であった。

また、「必要と思われる希望者のみ」12施設の具体的な理由は、「本人に任せている」、「自分で歯磨きができない」などであった。

**(I) 歯磨きの方法**

利用者に歯磨きの機会を取り入れている119施設に対し、歯磨きの方法について聞いたところ、「介助が必要な利用者には職員が介助している」89.9%、「歯磨き介助はしていない」8.4%であった。

**(II) 歯磨きのチェック**

利用者に歯磨きの機会を取り入れている119施設に対し、職員が歯磨きの状態をチェックしているか聞いたところ、「チェックしている」86.1%、「チェックしていない」13.9%であった。

**イ 口腔機能向上の取組み**

**(7) 今後取り入れたい活動（重複回答）**

利用者の歯や口の健康状態の向上のため、今後の取り入れたい活動について聞いたところ、「歯磨き指導や介助」58.2%、「嚙むことや飲み込むことなど口腔機能向上の取組み」44.3%、「口腔ケア」35.2%、「受診先や相談先の確保、連携強化」28.7%であった。

**(I) 専門職に望むこと**

利用者の歯や口の健康状態向上のため歯科医師や歯科衛生士などの専門職に望むことを聞いたところ、「職員研修などの施設職員に関すること」7件、「歯科健診・歯科治療などに関すること」27件、「摂食・嚥下機能、食事指導などに関すること」7件、「口腔ケア（歯磨きを含む）などの予防に関すること」14件、「家庭、利用者向けに関すること」5件、「その他」16件であった。

**(14) その他**

**ア 「いい歯東京」の認知度**

東京都歯科保健目標「いい歯東京」を知っているか聞いたところ、「知らない」76.2%、「知っている」21.3%であった。

**イ 東京都立心身障害者口腔保健センターの認知度**

**(7) 都立口腔保健センターの認知度**

都立心身障害者口腔保健センターを知っているか聞いたところ、「知っている」67.2%、「知らない」31.1%であった。

**(I) 都立口腔保健センター利用の有無**

知っているとは回答した施設82施設に対し利用したことがあるか聞いたところ、「利用したことがある」45.1%、「利用したことがない」54.9%であった。

**(II) 都立口腔保健センターを利用する理由**

都立心身障害者口腔保健センターを利用したことがある37施設に対し、どのような場合に利用するかを聞いたところ、「利用者やその家族の希望があったとき」67.6%、「地域や施設内の歯科からの紹介」37.8%であった。

**(I) 都立口腔保健センターを利用したことがない理由**

都立心身障害者口腔保健センターを利用したことがない45施設に対しその理由を聞いたところ、「地域（又は施設内）で受診が可能であるため」46.7%、「通院するには遠距離であるため」17.8%であった。

**ウ 地域の口腔保健センターの認知度**

**(7) 地域の口腔保健センターの認知度**

地区の口腔保健センターを知っているか聞いたところ、「知っている」53.3%、「知らない」46.7%であった。

**(I) 地域の口腔保健センター利用の有無**

地区口腔保健センターを知っている65施設に対し、利用したことがあるか聞いたところ、「利用したことがある」58.5%、「利用したことがない」41.5%であった。

### (ウ) 地域の口腔保健センターを利用する理由

地区の口腔保健センターを利用したことがある38施設に対し、どのような場合に利用するか聞いたところ、「利用者（又はその家族）の希望があったとき」42.1%、「歯科受診が必要になったときに最初に受診する」36.8%であった。

### (イ) 地域の口腔保健センターを利用したことがない理由

地域の口腔保健センターを知ってはいるが利用したことがない27施設に対し、その理由を聞いたところ、「地域（又は施設内）で受診が可能であるため」46.4%であった。

### エ 東京都や行政に望むこと

障害者の歯と口の健康を維持・向上するために、東京都や行政に望むことを聞いたところ、「歯科医療システム・環境整備などについて」34件、「歯科保健・医療の内容について」21件、「研修会、講習会などについて」10件、「その他」9件であった。

### オ 東京都立心身障害者口腔保健センターや地区の口腔保健センターに望むこと

東京都立心身障害者口腔保健センターや地区の口腔保健センターに望むことを聞いたところ、「歯科医療システムなどについて」14件、「歯科保健・医療の内容について」10件、「普及啓発（研修会、情報発信など）について」18件、「その他」8件であった。

## 2 医療機関を併設する重症児施設の歯科保健医療に関する実態調査

### (1) 調査数

調査回答数は、11施設であり、回収率は78.6%であった。

### (2) 回答者の職種

回答者の職種は、「歯科医師」54.5%、「看護師」18.2%であった。

### (3) 施設の種類

施設種別について聞いたところ、「医療型障害児入所施設」90.9%であった。

### (4) 施設の開設者

施設の開設者について聞いたところ、「東京都」54.5%、「社会福祉法人（社会福祉協議会）」27.3%であった。

### (5) 施設職員の構成

施設職員の職種の構成は、常勤、非常勤及びその他を合わせ、「看護師」748人、「医師」315人、「その他の専門職」256人であった。また、歯磨きにかかわる職員の職種は、「看護師」507人、「その他の専門職」117人、「介護福祉士」61人であった。

### (6) 施設利用者の定員

施設利用者の定員の平均は97.7人、最大250人、最少20人であった。

### (7) 利用者の構成

利用者の障害別の状況は、「主として知的障害」599人、「主として身体障害」162人であった。

(人)

年齢区分	主として身体障害	主として知的障害	主として精神障害	主として発達障害
18歳未満	64	41	2	55
18～64歳	491	110	1	22
65歳以上	44	11	3	3
合計	599	162	6	80

**(8) 施設内の歯科診療所設置状況**

施設内に歯科診療施設を設置しているか聞いたところ、全ての施設で「設置している」との回答であった。

**(9) 歯科健診の状況**

**ア 歯科健診の機会**

歯科健診の機会があるか聞いたところ、回答のなかった1施設を除いて全ての施設で「機会がある」との回答であった。

**イ 歯科健診の頻度**

健診の頻度を聞いたところ、「年3回以上」45.5%、「年2回」36.4%であった。

**ウ 歯科健診の対象者**

健診の対象者を聞いたところ、すべての施設で「施設利用者全員」との回答であった。

**エ 健診の方法**

健診の方法について聞いたところ、すべての施設で「施設内の歯科施設を利用」との回答であった。

**オ 健診の課題**

健診に課題があるか聞いたところ、「課題がない」45.5%、「課題がある」27.3%であった。

**(10) 歯や口腔の健康状態（年間の人数）**

**ア 症状の訴え、気づきの状況**

歯や口腔の状態について症状を訴えたり職員が気がついたりする利用者の人数について聞いたところ、「歯ぐきの腫れ・出血（延べ人数）」230人、「飲み込みにくい（実数）」78人であった。

(人)

年齢区分	歯が痛い(延べ)	歯ぐきの腫れ・出血(延べ)	硬いものを嫌ったり、かみにくい(実数)	飲み込みにくい(実数)	その他
18歳未満	45	47	20	26	6
18～64歳	81	147	24	43	23
65歳以上	30	36	6	9	4
合計	156	230	50	78	33

**イ 訴えに対し受診勧奨の状況**

症状を訴えた利用者に対し受診を勧めるかについて聞いたところ、歯ぐきの腫れ・出血を訴えた利用者に対し「受診を勧める」171人、飲み込みにくいと訴えた利用者に対し「受診を勧める」46人であった。

(人)

	歯が痛い(延べ)	歯ぐきの腫れ・出血(延べ)	硬いものを嫌ったり、かみにくい(実数)	飲み込みにくい(実数)	その他
積極的に勧める	154	171	24	46	7
行った方がよいと勧める	0	0	1	0	0
場合によっては勧める	0	0	0	0	5
勧めてはいない	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	5	0

## (11) 食事、食べる機能（摂食機能）支援の状況

### ア 食事

#### (7) 食事の提供方法

施設での食事はどのような方法を取っているか聞いたところ、すべての施設が「施設が調理した食事を提供」との回答であった。

#### (4) 提供する食事の形態

施設が調理し提供した食事の形態について聞いたところ、「一般食（常食）」、「軟食（刻み食含む）」、「流動食（ミキサー食、ペースト食を含む）」のすべてについて提供しているとの回答であった。

#### (5) 利用者への食事介助に関する問題

利用者への食事介助に関して問題を感じるものがどの程度あるか聞いたところ、「大変ある」63.6%、「ややある」18.2%であった。

また、具体的内容は、「利用者の摂食・嚥下機能の低下」、「介助側（施設側）の問題」などであった。

### イ 摂食機能支援

#### (7) 摂食機能のための指導・訓練の状況

食べたり飲み込んだりすることに問題がある利用者に対して、食べる機能（摂食機能）の維持向上を図るための指導・訓練を実施しているか聞いたところ、すべての施設で「実施している」との回答であった。

#### (4) 摂食機能のための指導・訓練の状況（重複回答）

実施している指導・訓練の内容について聞いたところ、すべての施設で「食環境（姿勢や食具など）の指導」、「食内容（食形態・物性など）の指導」を実施しているとの回答であった。また、「関節機能訓練（嚥下体操や器具を使ったトレーニングなど）」、「直接的機能訓練（実際の食品を使った訓練）」のいずれも81.8%であった。

#### (5) 指導・訓練を主に実施している職員の職種

指導・訓練を主に実施している職員の職種を聞いたところ、「看護師」72.7%、「作業療法士」63.6%、「理学療法士」36.4%、「歯科衛生士」36.4%、「医師」18.2%、「歯科医師」18.2%であった。

## (12) 歯科受診の状況

### ア 受診先

#### (7) 利用している受診先

施設として通常利用している受診先を聞いたところ、すべての施設で「施設内の歯科施設」との回答であった。

#### (4) 受診先を選ぶ理由

施設が通常利用している受診先を選ぶ理由について聞いたところ、「歯科医師が常駐」、「いつでも対応し定期的な管理」などであった。

### イ 受診の方法

受診方法を聞いたところ、「職員の介助で」90.9%、「自分で（家族の介助含む）」27.3%であった。

### ウ 歯科受診の課題

歯科受診について課題があるか聞いたところ、「課題がある」36.4%、「課題はない」36.4%であった。

また、その内容について聞いたところ、「受診に付き添う人員」などであった。

## (13) 歯や口腔の健康管理の状況

### ア 歯磨き

#### (7) 歯磨きの機会

利用者に歯磨きの機会を取り入れているかについて聞いたところ、すべての施設で



「取り入れている」との回答であった。

**(イ) 歯磨きの頻度**

歯磨きの頻度について聞いたところ、無回答の1施設を除き、すべての施設で「朝食後」、「昼食後」、「夕食後」すべてにおいて実施しているとの回答であった。

**(ウ) 歯磨きの対象者**

歯磨きの対象者について聞いたところ、すべての施設で「全員」との回答であった。

**(エ) 歯磨きの方法**

歯磨きの方法について聞いたところ、すべての施設で「介助が必要な利用者には職員が介助している」との回答であった。

**(オ) 歯磨きのチェック**

職員が歯磨きの状態をチェックしているか聞いたところ、無回答の1施設を除いて、すべての施設で「チェックしている」との回答であった。

**イ 口腔機能向上の取組み**

**(7) 今後取り入れたい活動(重複回答)**

利用者の歯や口の健康状態の向上のため、今後の取り入れたい活動について聞いたところ、「噛むことや飲み込むことなど口腔機能向上の取組み」63.6%、「歯磨き指導や介助」54.5%、「口腔ケア」45.5%、「フッ化物洗口やフッ素塗布」36.4%、「定期的な歯科健診の機会」36.4%、「歯科衛生士などの専門職の採用」27.3%であった。

**(イ) 専門職に望むこと**

利用者の歯や口の健康状態向上のため歯科医師や歯科衛生士などの専門職に望むことを聞いたところ、「病棟での口腔ケア」などであった。

**(14) その他**

**ア 「いい歯東京」の認知度**

東京都歯科保健目標「いい歯東京」を知っているか聞いたところ、「知らない」72.7%、「知っている」9.1%であった。

**イ 東京都立心身障害者口腔保健センターの認知度**

**(7) 都立口腔保健センターの認知度**

都立心身障害者口腔保健センターを知っているか聞いたところ、「知っている」72.7%、「知らない」27.3%であった。

**(イ) 都立口腔保健センター利用の有無**

知っているとは回答した施設8施設に対し利用したことがあるか聞いたところ、「利用したことがある」18.2%、「利用したことがない」45.5%であった。

**(ウ) 都立口腔保健センターを利用する理由**

どのような場合に利用するかを聞いたところ、「利用者やその家族の希望があったとき」のみの回答であった。

**(エ) 都立口腔保健センターを利用したことがない理由**

利用したことがない5施設に対し、その理由を聞いたところ、「地域（又は施設内で受診が可能であるため）80.0%であった。

**ウ 地域の口腔保健センターの認知度**

**(7) 地域の口腔保健センターの認知度**

地区の口腔保健センターを知っているか聞いたところ、「知っている」54.5%、「知らない」27.3%であった。

**(イ) 地域の口腔保健センター利用の有無**

地区口腔保健センターを知っている6施設に対し、利用したことがあるか聞いたところ、「利用したことがある」33.3%、「利用したことがない」66.7%であった。

**(ウ) 地域の口腔保健センターを利用する理由**

地区の口腔保健センターを利用したことがある2施設に対し、どのような場合に利用するか聞いたところ、すべての施設で「利用者（又はその家族）の希望があったと

き」との回答であった。

**(I) 地域の口腔保健センターを利用したことがない理由**

地域の口腔保健センターを知ってはいるが利用したことがない4施設に対し、その理由を聞いたところ、すべての施設で「地域（又は施設内）で受診が可能であるため」との回答であった。

**エ 東京都や行政に望むこと**

障害者の歯と口の健康を維持・向上するために、東京都や行政に望むことを聞いたところ、「各医療機関の連携の強化」、「施設内の整備」などであった。

**オ 東京都立心身障害者口腔保健センターや地区の口腔保健センターに望むこと**

東京都立心身障害者口腔保健センターや地区の口腔保健センターに望むことを聞いたところ、「医療連携の確立」、「専門医療機関の役割分担の明確」などであった。

**3 障害者福祉施設に対する歯科保健医療に関する聞き取り調査**

**(1) 調査数**

調査回答数は、122施設であり、回収率は81.3%であった。

なお、この調査は、「障害者福祉施設の歯科保健医療に関する実態調査」に回答した施設を対象に、歯科医師が聞き取り調査を行った。

**(2) 受診先の状況**

**ア 利用している受診先(重複回答)**

**(7) 対象施設全体**

施設利用者が受診する際にどこに受診しているか聞いたところ、「地域の歯科診療所」77.9%、「地区口腔保健センター」38.5%、「東京都心身障害者口腔保健センター」36.1%であった。

**(I) 区部**

区部の施設では、「地域の歯科診療所」80.0%、「東京都心身障害者口腔保健センター」44.4%、「地区口腔保健センター」38.9%であった。

**(ウ) 多摩部**

多摩部の施設では、「地域の歯科診療所」71.9%、「地区口腔保健センター」37.5%、「東京都心身障害者口腔保健センター」12.5%であった。

**イ 受診先を選ぶ理由**

**(7) 対象施設全体**

受診先を選ぶ理由について聞いたところ、「障害者の歯科医療の専門機関であり、安心だから」27.9%、「施設から歯科医療機関が近く、通院に便利だから」24.6%、「家族などのかかりつけ歯科医療機関だから」24.6%であった。

**(I) 区部**

区部の施設では、「家族のかかりつけだから」28.6%、「障害者の専門だから」27.5%、「施設から近いから」25.3%であった。

**(ウ) 多摩部**

多摩部の施設では、「障害者の専門だから」28.1%、「施設を訪問して診療をしてくれるから」25.0%、「施設から近いから」21.9%であった。

**ウ 診療内容の満足度**

**(7) 対象施設全体**

受診先の診療内容に満足しているかを聞いたところ、「満足」70.5%、「不満足」6.6%であった。

**(I) 区部**

区部の施設では、「満足」70.0%、「不満足」6.7%であった。

**(ウ) 多摩部**

多摩部の施設では、「満足」71.9%、「不満足」6.3%であった。

## エ 満足・不満足の原因

### (7) 対象施設全体

診療内容の満足または不満足の原因を聞いたところ、満足の理由は、「診療がよい・安心」28.7%、「定期管理している」9.8%であった。また、不満足の原因は、「指導・設備不足」5.7%、「対応不親切」4.1%であった。

### (イ) 区部

区部の施設では、満足の理由は、「診療がよい・安心」25.6%、「定期管理している」8.9%であった。また、不満足の原因は、「指導・設備不足」4.4%であった。

### (ウ) 多摩部

多摩部の施設では、満足の理由は、「診療がよい・安心」37.5%、「定期管理している」12.5%であった。また、不満足の原因は、「指導・設備不足」9.4%であった。

## 4 障害者福祉施設利用者の歯科保健医療に関するアンケート調査

### (1) 調査数

調査回答数は、1,091人であった。

なお、この調査は、「障害者福祉施設の歯科保健医療に関する実態調査」に回答した施設利用者を対象に調査を行った。

### (2) 回答者の状況

回答者は、「本人」11.6%、「家族」58.4%であった。

### (3) 施設利用者の状況

#### ア 性別

施設利用者の性別を聞いたところ、「男性」57.0%、「女性」41.8%であった。

#### イ 年齢

施設利用者の年齢を聞いたところ、「20歳代」25.2%、「30歳代」24.7%、「40歳代」22.3%であった。

#### ウ 主たる障害

施設利用者の主たる障害を聞いたところ、「主に知的障害」58.3%、「主に身体障害」46.3%であった。

### (4) 歯や口の状況

#### ア 困っていることの有無

現在、歯や口に関して困っていることがあるか聞いたところ、「困っている」46.0%、「困っていない」50.9%であった。

#### イ 困っている内容(重複回答)

歯や口に関して困っていることがある502人に対し、その内容について聞いたところ、「むし歯や歯周病」47.6%、「うまく噛めない、飲み込めない」22.1%、「歯並び」21.9%、「噛み合わせの異常」14.1%であった。

#### ウ 困っている期間

現在、歯や口で困っていることがある502人に対し、いつ頃から困っているか聞いたところ、「6か月以上前」76.9%であった。

### (5) 歯科健診の状況

#### ア 歯科健診の有無

歯科健診を受けているか聞いたところ、「受けている」86.3%、「受けていない」12.7%であった。

#### イ 歯科健診の頻度(重複回答)

歯科健診を受けている942人に健診の頻度を聞いたところ、「3か月に一回の頻度」

29.8%、「半年に一度」22.9%、「1年に1回」18.2%であった。

#### ウ 歯科健診を受けていない理由(重複回答)

歯科健診を受けていない139人に対して、を受けていない理由を聞いたところ、「通院が難しい」31.7%、「必要と思われない」26.6%であった。

### (6) 歯科受診の状況

#### ア 歯科受診の有無

今までに歯科治療を受けたことがあるかを聞いたところ、「受けたことがある」94.9%であった。

#### イ 歯科受診の時期

今までに歯科治療を受けたことがある1,035人に一番最近の受診時期を聞いたところ、「半年前まで」60.7%、「1年以上前」16.1%であった。

#### ウ 受診先

歯科治療を受けたことがある1,035人に対して、どこで治療を受けたか聞いたところ、「診療所」35.7%、「病院」20.3%、「都立心身障害者口腔保健センター」12.0%、「訪問診療」11.8%、「地域の口腔保健センター」10.7%、「大学病院」9.1%であった。

#### エ 受診先を選んだ理由

歯科治療を受けたことがある1,035人に対して、受診先を選んだ理由を聞いたところ、「自宅や施設の近く」20.8%、「家族・知人からの紹介」17.7%、「他の歯科医療機関からの紹介」8.2%であった。

#### オ 受診内容

歯科治療を受けたことがある1,035人に対して、受診内容を聞いたところ、「歯石除去・歯面清掃」66.7%、「むし歯や歯周病の治療」53.0%、「口腔衛生指導」30.9%であった。

#### カ 治療の満足度

歯科治療を受けたことがある1,035人に対して、治療を受けてどのように感じたか聞いたところ、「満足」52.4%、「とても満足」28.9%、「どちらでもない」12.8%、「不満」2.4%、「とても不満」1.0%であった。

#### キ 不満の理由

治療を受けて不満である、とても不満であると回答した35人に対し、その理由を聞いたところ、「治療に対する不満」、「通院・治療が苦痛」、「歯科医師に対する不満」などであった。

#### ク 受診しなかった理由

今までに歯科治療を受けたことがない46人に対し、受診しなかった理由を聞いたところ、「受診する必要がなかったため」73.9%、「どこに受診すればよいかわからなかったため」4.3%、「歯科医療機関に受診を断られたため」2.2%であった。

### (6) かかりつけ歯科医の状況

#### ア かかりつけ歯科医の有無

かかりつけ歯科医を決めているか聞いたところ、「決めている」83.0%、「決めていない」15.1%であった。

#### イ かかりつけ歯科医の種類

かかりつけ歯科医を決めている905人に対し、その歯科医療機関はどのようなところかを聞いたところ、「診療所」36.1%、「病院」20.6%、「都立心身障害者口腔保健センター」12.7%、「地域の口腔保健センター」11.9%、「訪問診療」10.9%、「大学病院」7.5%であった。

#### ウ かかりつけ歯科医の理由

かかりつけ歯科医を決めている905人に対し、かかりつけとしている理由を聞いたところ、「障害者に適切に対応したり、障害者に配慮した施設であるから」67.7%、「自宅(施設)の近くだから」21.9%であった。

**(7) 今後の歯科受診に対する要望(重複回答)**

今後歯科受診をするにあたりどのようなことを望むか聞いたところ、「患者の全身状況や周囲の状況をよりよく理解する環境」57.4%、「どの歯科医療機関でも安心して診療が受けられる環境」48.1%、「専門性の高い歯科医療機関で安心して診療が受けられる環境」37.6%であった。

**(8) 困っていることや要望**

歯科科受診を受ける上で困っていることや要望を聞いたところ、「障害者歯科医療システムの要望」、「歯科治療の内容・歯科医師への要望」、「利用者自身・家族のこと」などであった。